



学 会 通 信

第 77 号

2016 年 5 月 13 日発行

目次

第 23 回日本教育メディア学会年次大会にあたってご挨拶	2
第 23 回日本教育メディア学会年次大会の開催【第 1 報】	3
23 巻 2 号特集号のお知らせ	5
第 1 回研究会の開催	6
第 2 回研究会のご報告	7
編集委員会・企画委員会合同ワークショップのご報告	9
ICoME のご案内	10
第 2 回理事会議事録	12
学会費納入のお願い、登録情報更新のお願い、入会者・退会者	14

第 23 回日本教育メディア学会年次大会にあたってご挨拶

大会実行委員長 小柳和喜雄（奈良教育大学）

2016年11月26日（土）、27日（日）の2日間にわたり、第23回日本教育メディア学会年次大会が奈良市高畑町にある奈良教育大学にて開催されます。

今大会では、学習指導要領の改訂によって、教育実践の何が変わるのか、何が求められてくるのか、教育メディア研究の財産は、教育改革の動きや未来にどのような貢献を果たすことができるか、などに焦点を当て、教育メディア研究について、あらためて多くの参加者とともに議論を展開したいと考えております。準備段階ですので、詳しいスケジュール等は確定していませんが、「自由研究」に加えて、下記のような「シンポジウム」「基調講演」「課題研究」を企画しています。なお、基調講演につきましては、多くの方と問題意識を共有したく、一般公開いたします。学校・大学関係者広くお誘い合わせの上、ご参加ください。

基調講演「教育メディア研究のこれまでとこれから」（仮題）

講演者：黒上晴夫（日本教育メディア学会長・関西大学）

シンポジウム「資質・能力と新学習指導要領（仮題）」

コーディネータ：小柳和喜雄（奈良教育大学）

課題研究Ⅰ「一人一台タブレット時代における実践と評価」

コーディネータ：後藤康志（新潟大学）・中川一史（放送大学）

課題研究Ⅱ「グローバル化とメディアの活用」

コーディネータ：佐藤慎一（日本福祉大学）・岸磨貴子（明治大学）

課題研究Ⅲ「情報教育の動向と情報活用能力の育成」

コーディネータ：泰山裕（鳴門教育大学）・西端律子（畿央大学）

課題研究Ⅳ「メディア・リテラシーにかかわる授業づくりと番組作り」

コーディネータ：村野井均（茨城大学）・宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）・中橋雄（武蔵大学）

会場となる奈良教育大学は、東大寺、興福寺、春日大社、奈良公園から、徒歩15分のところにあり、近鉄奈良駅、JR奈良駅からも、それぞれ市内循環バスで、15分から20分ほどで、大学の正門に到着できるアクセスがよい場所です。幅広い方々からの研究発表のご応募をはじめ、当学会へのご参加をお待ちしています。

第 23 回日本教育メディア学会年次大会のご案内【第 1 報】

大会実行委員長 小柳和喜雄 (奈良教育大学)

- (1) 開催期日 2016 年 11 月 26 日 (土) ~27 日 (日)
(2) 開催場所 奈良教育大学
〒639-8528 奈良市高畑町 <http://www.nara-edu.ac.jp/>
(3) 開催スケジュール (予定)

11 月 26 日 (土)

- ・受付 (9 : 30~)
- ・一般研究発表 (10 : 00~11 : 30)
- ・昼食 (11 : 30~12 : 30)
- ・総会 (12 : 30~13 : 20)
- ・一般研究発表 (13 : 30~15 : 30)
- ・基調講演 (15 : 40~17 : 00)
- ・懇親会 (17 : 30~19 : 30)

11 月 27 日 (日)

- ・受付 (9 : 00~)
- ・課題研究 (9 : 30~11 : 30)
- ・昼食 (11 : 30~12 : 30)
- ・一般研究発表 (12 : 30~14 : 30)
- ・シンポジウム (14 : 45~16 : 45)

※上記スケジュールは仮のものです。日本教育メディア学会 Web サイト
(<http://jaems.jp/>) の「年次大会」において最新の更新情報をご確認ください。

- (4) 発表申込み・原稿締切について

発表者の要件：発表者は会員であることが必須です。発表申込時点までに本学会への入会手続きを済ませてください。なお、入会申込書は学会ホームページからダウンロードしてください。また会員 1 名が発表できる件数は、課題研究 1 件、一般研究 1 件、計 2 件までとします。

【課題研究プロポーザル (要旨) の申し込み期間】 2016 年 6 月 20 日 (月) ~7 月 18 日 (月)

※課題研究で発表する場合には、まず以下、課題研究 I ~IV のどのテーマと関わって提案をするか、その発表内容についてプロポーザルを提出する必要があります。プロポーザル受付開始と共に、書式を学会 Web の大会サイトに示しますので、必要事項を記載し、そこからプロポーザルを提出してください。課題研究ごとに最大 5 件を予定しております。ご提案をいただいても選考結果によっては一般発表に回っていただくことをお願いする場合がございますので予めご了承ください。課題研究としての発表の採否通知は 7 月末頃におこなう予定です。

【課題研究 発表予稿集原稿 (2 ページもしくは 4 ページ) 提出締切】 2016 年 9 月 26 日 (月)

課題研究Ⅰ「一人一台タブレット時代における実践と評価」

コーディネータ： 後藤康志（新潟大学）・中川一史（放送大学）

確かな「生きる力」を育成するために、ICTの活用による協働的な学び、深い学びの実現は急務です。第2期教育振興基本計画でも質の高い学びを実現する教育環境整備が謳われています。本セッションでは、昨年度の「タブレット端末環境の実践・評価・運用」を発展させ、ICT活用の実践と評価に関わる議論を深めたいと考えます。

課題研究Ⅱ「グローバル化とメディアの活用」

コーディネータ： 佐藤慎一（日本福祉大学）・岸磨貴子（明治大学）

グローバルな視点をもった様々な教育実践・メディア活用に関して議論します。海外フィールドワークや留学などの教育プログラム、海外との協働プロジェクトや交流学习、グローバルイシューに取り組むサービスラーニングや問題解決型学習、異文化間教育、持続可能な開発のための教育（ESD）、日本人学校・補習授業校での教育実践、国際教育開発の実践などの研究発表を募集いたします。

課題研究Ⅲ「情報教育の動向と情報活用能力の育成」

コーディネータ： 泰山裕（鳴門教育大学）・西端律子（畿央大学）

情報化社会を生きる子どもたちにとって、情報活用能力は重要な能力となっています。また、そのような能力を育てるための学習環境や情報教育についても検討が進められています。昨年、情報活用能力調査の結果が公表され、我が国の子どもたちの課題が明らかになる中、様々な取り組みが行われています。そのような状況を踏まえ、本セッションでは、これまでの情報教育の動向や情報活用能力の育成を目指した実践などについての発表を募集します。ICTを活用した教育実践や教科横断的で汎用的な資質能力の育成に向けた取り組み、次期学習指導要領での導入が検討されている初等教育におけるプログラミングなど、幅広い視点から情報教育について議論したいと考えています。

課題研究Ⅳ「メディア・リテラシーにかかわる授業づくりと番組作り」

コーディネータ： 村野井均（茨城大学）・宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）・中橋雄（武蔵大学）

新学習指導要領が目指す学力観やデジタル教科書・タブレット端末導入など学習環境の変化に伴って、メディア・リテラシーとその教育に関する研究の重要性も増しているといえます。本課題研究では、そのような時代に対応したメディア・リテラシーに関する教育実践、教育番組制作とその活用のあり方などについて議論します。

【一般研究の申込期間】 2016年8月16日（火）～9月26日（月）

※期日までに提出された発表予稿集原稿の受領をもって発表申し込みとさせていただきます。原稿枚数（2ページ）、書式をご確認の上、大会 Web サイトよりご提出ください。なお、一般研究に英文で提出する場合は発表も英語で行って頂きます。英語での論文は10件程度まで受け付けます。

(5) 年次大会の参加費等

参加申し込みは、昨年通り、以下の通りとします。

会員 3000 円 (事前)、4000 円 (当日)

学生会員 1000 円 (事前)、2000 円 (当日)

非会員 4000 円 (事前)、5000 円 (当日) ※ただし、現職教員(幼保小中高の教員)は無料

学生非会員 2000 円 (事前)、3000 円 (当日)

懇親会 5000 円 (学生 3000 円)

*大会参加事前申し込みの方法は、次回7月のニュースレター発行時にお知らせいたします。

(6) 大会事務局・問い合わせ先

- ・年次大会に関するお問い合わせは下記まで電話または電子メールにてお願いします。

奈良教育大学 教職大学院 小柳研究室

電話：0742-27-9295

メールアドレス: oyanagi@oyanagi-lab.com

なお、今回も前回大会の方針に基づいて、発表予稿集の刊行はいたしません。大会前に、会員の皆様に PDF ファイルの形での配布となります。

23 巻 2 号特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」のお知らせ

編集委員会 (委員長/鈴木克明: 熊本大学)

■特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」(予定) (Vol. 23, No. 2) 募集のお知らせ

本巻の教育メディア研究では「タブレット端末環境と実践・評価・運用」というテーマで特集を組みます。「フューチャースクール推進事業」「学びのイノベーション事業」以降、各自治体や学校でタブレット端末環境の導入が進んでいます。効果的なタブレット端末導入・普及・運用の在り方、タブレット端末用教材の開発・評価、学習デザインや指導方略及びその効果、指導者の養成・研修、国内外の実態調査や展望など、教育におけるタブレット端末環境に関して多様な側面からの研究論文を広く募集します。

また、同時に一般論文も広く募集します。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

締切：2016 年 7 月 30 日

2016年度 第1回研究会（研究委員会・企画委員会合同）の開催

■開催テーマ 「ICT時代の実践研究／一般」

研究委員会（国内研究会担当委員長／稲垣忠：東北学院大学）
企画委員会（委員長／佐藤幸江：金沢星稜大学）
研究委員会（本企画担当／小林祐紀：茨城大学）

教育ICTの整備・普及は、地域間の差という課題を抱えながらも全国各地で進められています。次期学習指導要領においてもICT活用の推進や情報活用能力の育成の重要性が改めて指摘されているようです。また、各地で教職大学院が動きだし、これまで以上に実践と理論の往還が求められていると感じます。そこで、今回は、ICT時代の実践研究をテーマとした発表を募集します。その他、本学会がテーマとする内容に関する研究についての発表も募集します。

また、本会は研究委員会と企画委員会の合同開催です。午前中には教育ICTの活用やメディア教育の実践発表、実践研究論文の執筆の進め方に関する講演等を企画しています。

■日程 2016年7月17日（日曜日開催です）10時より（午前：実践発表・講演会、午後：研究発表）

■場所 茨城大学 水戸キャンパス

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/>

JR水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス

「茨大行（栄町経由）」に乗車、「茨大前」で下車。

■参加費 資料代1,000円（午前だけの参加は無料）

■参加・発表申込み 5月31日（火）

本研究会の発表は学会員、非会員を問わず発表することができます。発表申込みをされる方は以下のURLから発表タイトル、発表者名をお申し込みください。発表申込み締め切り後、研究会開催担当者よりメールにて執筆案内を連絡します。また、午前のみ午後のみ参加も受け付けます。

URL: <http://jaems.jp/meeting/>

原稿提出：6月30日（木）まで メールにて提出をお願いします。

なお、原稿は学会Webサイトにある書式に従ってご執筆をお願いします。

4頁以上、10頁以内の偶数頁です。

※2016年度より、学会論文誌とサイズ、文字数等をそろえました。

※実践発表の原稿に関しましては、別途対応させていただきます。

■参加の申込み

本研究会は、発表をしない参加も受け付けております。上記URLのフォームをご利用いただき、「発表しない」にチェックをいれてください。研究報告の第二、第三著者の方が参加される場合にも、同様に「発表しない」にチェックの上、申込みをお願いします。懇親会への参加も歓迎します。

2015 年度第 2 回研究会のご報告

2016 年 3 月 26 日(土)、2015 年度第 2 回研究会が関西大学東京センターにて開催されました。合計 19 名が参加し、10 件の研究発表が行われました。

今回の研究会は「メディア教育のための学習環境・教員支援」をテーマに開催されました。現在、教育を取り巻くメディア環境が大きく変化する中、メディアを活用した教育やメディアを扱うための能力の育成などが求められており、そのような教育実践を支えるための学習環境・教員支援が必要とされているためです。

発表された 10 件はすべて開催テーマと関連した報告が行われました。

「自分のメディア史のデジタル・ストーリーテリング作成によるホープレスネス及び態度の変化」では、これまで自分が関わってきたメディアをメディア史として整理することによる学生への効果について報告されました。「教育番組・デジタルコンテンツを活用した教育のための教師支援」では、これまで NHK が行ってきた教育番組の放送や関連コンテンツの公開の歴史を振り返りながら、それを教育で活用するための教員支援について報告されました。「思考スキルに焦点化した授業設計のポイントと効果の検討」では、情報活用能力の育成を目指した授業設計の視点としての思考スキルの活用のポイントとその授業設計への効果について報告されました。「算数科における普通授業と反転授業の比較検討」では、普通授業と反転授業の指導法の違いが児童の学力に対してどのような効果があるのかについて報告がなされました。「異なる ICT 環境の教室で学ぶ児童の発表意欲に関するインタビュー調査」では、学習環境の違いが児童の発表意欲に与える影響の違いについて報告され、その要因として提示方法や発表者の立ち位置などが影響することが提案されました。

「タブレットを活用したプロジェクト学習の設計に関する調査」では、タブレットの活用を前提としたプロジェクト学習の設計について、典型的なタブレット活用場面とそのための授業設計の配慮点などについて提案がなされました。「「アクティブ・ラーニング」の視点に立った「情報活用学習」指導計画作成演習の試みー情報機器と学校図書館を併用してー」では、ICT 等のメディアや図書等の資料を組み合わせ「アクティブ・ラーニング」を実践するための授業設計に関する教員研修の成果について報告されました。「テレビ番組の「やらせ」に関するリテラシーを養う討論型の授業の実践」では、大学生を対象としたメディア・リテラシーの育成を狙う実践とその成果について報告がなされました。「ソーシャル・メディア経由の情報を読解するための実践の施行と評価ー東日本大震災における Twitter の役割やデマ情報を題材にー」では、小学生を対象としたメディア・リテラシー育成の実践として、緊急時の Twitter 経由の情報を正しく読み取らせるための実践とその成果について報告がなされました。「体験学習における役割の違いが学習に与える影響：メディア・リテラシーの



授業実践による検討」では、高校生を対象としたメディア・リテラシー教育において、受信者や発信者といった役割の体験の違いが生徒に与える影響について報告がなされました。

全体を通して、テーマとなった「メディア教育」について、教育環境や児童・生徒・学生の情報活用能力やメディア・リテラシーの育成のための授業設計方法など、多様な視点からの発表がありました。発表件数の関係で、発表時間が短い部分もありましたが、質疑応答でも発表内容に関する活発な議論がなされ、それぞれの発表が関連づけられ、深まりを感じられる研究会となりました。本研究会にご参加いただきました皆様に改めてお礼を申し上げます。

文責：泰山裕（鳴門教育大学）

編集委員会・企画委員会合同ワークショップのご報告

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

企画委員会（委員長／佐藤幸江：金沢星稜大学）

2016年3月30日（水）13時から、京都外国語大学で、編集委員会・企画委員会の合同企画によるワークショップを開催しました。本ワークショップは、2016年7月30日締め切りの「教育メディア研究」第23巻2号において、特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」を予定していることと連動した企画でした。

23名の参加によるワークショップであり、3つの話題提供と、3グループに分かれて各2名のレポートの検討を行う内容の濃い研究交流が行われました。

第1部の関連研究に関する話題の提要としては、市川尚（岩手県立大学）氏、瀬戸崎典夫（長崎大学）氏、森下孟（信州大学）氏から行われました。市川氏からは、近年のタブレットに関する研究論文について広くレビューした結果を報告していただくとともに、ご自身で取り組まれている数学等でのタブレット活用の実践事例を紹介していただきました。瀬戸崎氏からは、すでに論文化されたご自身のタブレットに関する研究事例3つを紹介していただきながら、新規性や査読のポイントなどを紹介いただきました。森下氏からは、附属学校での取り組みを中心にICT活用環境整備と教育実習におけるタブレット活用等に関する事例の紹介をしていただきました。



第2部のグループワークでは、市川尚（岩手県立大学）氏、村上正行（京都外国語大学）氏、永田智子（兵庫教育大学）の3人をコーディネータとして、3つのグループに分かれ、各グループ内でそれぞれ2名の研究レポート報告（自身が進めている、あるいは、進めたい研究内容の紹介）が行われました。報告を受け、各グループで活発な議論が行われ、研究論文にするための研究デザインやデータの収集方法、重点の置き方などについて深い議論が行われました。

最後に、まとめとして村上正行編集委員より、論文投稿にあたっての注意点の説明がなされました。全体を通じて、各参加者がテーマに関する知識を深めるとともに、論文化することに対する意欲を高めることのできた会となりました。ご参加・ご協力いただいたみなさまに感謝いたします。



永田智子（兵庫教育大学）

ICoME2016 開催のご案内

研究委員会 国際研究会担当 副委員長 村上 正行

ICoME2016 は、2016 年 8 月 18 日から 20 日に京都外国語大学にて開催されます。

ICoME (International Conference for Media in Education) は今回で第 14 回目の実施となり、日本教育メディア学会 (JAEMS)、日本教育工学会 (JSET)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育工学会 (CAET)、アメリカ TCC (Technology, Colleges and Community) オンラインカンファレンスとの連携によって開催されます。

ICoME は、国内外からの多くの教育研究者や実践者が集まり、教育メディアや教育技術に関する貴重な研究や実践の発表、共有の場となります。本会が、各国の研究者間で行われる互恵的な意見交換の場となりますよう、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

ICoME2016: The 14th International Conference for Media in Education
August 18 - 20, 2016. Kyoto University of Foreign Studies, Japan
Web page: <http://icome2016.iwd.jp/>

■ **Conference Theme:** Building relationships and a sense of community in a digital society

■ **Keynote Speaker**

Dr. Charles M. Reigeluth (Professor emeritus at Indiana University)

■ **Research Areas**

- 1) School Media & Technology
- 2) System/Product Development and others
- 3) Lesson Study/Teaching Methods and others
- 4) English Education / International collaborative project
- 5) Others

■ **発表論文の募集スケジュール (申込については Web をご覧ください)**

・ 発表概要の提出 : 5 月 14 日 (土)

※英語 200 語以内

※概要を運営委員会が確認し、受諾可否を決定いたします。

- ・発表概要の受諾：5月30日（月）
 - ・最終原稿の提出：6月30日（木）
 - ※Concurrent Session：4~6 ページ
 - ※Round Table Session：2~4 ページ（大学院生，学部生のみ発表可能）
 - ・参加申込の締切：6月30日（木）
 - ※期日以降の参加申込はすべて当日参加扱いとなります。
 - ※ご発表の方も参加申込が必要です。お忘れなく申込をお済ませください。
-
-

第 2 回理事会（定例）議事録

[日 時] 2015 年 4 月 16 日（日）11:00-13:30

[場 所] 東京（関西大学東京センター）、大阪（関西大学）2 会場をテレビ会議で結び実施

[出席者] 会長、理事 21 名、委任状（会長に一任）4 名、監事 1 名

会長 大阪：黒上晴夫

理事 東京：宇治橋祐之、浦野弘、岸磨貴子、後藤康志、佐藤幸江、鄭仁星、鈴木克明、中川一史、藤田稔、村野井均、渡辺雄貴

大阪：浅井和行、小柳和喜雄、佐藤慎一、久保田賢一、寺嶋浩介、永田智子、堀田博史、村上正行、林向達

欠席（議長に委任）：稲垣忠、影戸誠、堀田龍也、中橋雄

監事 東京：佐々木輝美、欠席：生田孝至

事務局 東京：山本良太、大阪：泰山裕

<審議事項>

（1）入会者・退会者について

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

（2）2015 年度事業報告・2016 年度事業計画について

事務局長から、「2015 年度事業報告・2016 年度事業計画案」が示され、審議の結果承認された。

（3）年次大会の内容、参加費等について

年次大会委員長および大会実行委員長からシンポジウム・基調講演・課題研究の計画が提案された。審議の結果、シンポジウム・基調講演のテーマ・登壇予定者については原案通り承認され、課題研究については 4 つのテーマについて開催する計画が承認された。大会参加費については、昨年度と同様にする旨が確認された。

（4）学会通信 台割案について

広報委員会委員長から今後の学会通信（77～81 号まで）の台割案について提案がなされ、審議の結果、承認された。ただし、研究会などの開催日程により記事掲載予定号が変更になる場合があることが確認された。

（5）今後の選挙のあり方について

事務局長から、現在の選挙のあり方について説明があり、今後の選挙の進め方について意見が交換された。特に、投票率を上げるための方策について議論が行われた。具体的な方策については、今後の検討事項とすることとなった。

(6) 各種委員会規約について

事務局長から各種委員会規約の策定について説明があり、審議の結果承認された。

(7) 次回理事会について

事務局長から次回理事会について提案され、審議の結果承認された。

(8) その他

特になし

<報告事項>

(1) 編集委員会（国内ジャーナル担当）報告

編集委員長（国内ジャーナル担当）から、『教育メディア研究』編集進捗状況について報告がなされた。

(2) 編集委員会（国際ジャーナル担当）報告

編集委員長（国際ジャーナル担当）から、IJEMT ジャーナル編集の進捗状況について報告がなされた。

(3) 研究委員会（国内担当）報告

研究委員会（国内担当）委員から、2015 年度研究会開催報告と 2016 年度研究会開催日程・場所について報告がなされた。

(4) 研究委員会（国際担当）報告

研究委員会（国際担当）委員から、ICoME2016 開催に関する進捗状況について報告がなされた。また、学会員 ML を通じて、会員に対して ICoME2016 参加者募集について周知することになった。

(5) 企画委員会報告

企画委員会委員長から、今年度の計画について報告がなされた。

(6) 広報委員会報告

広報委員会委員長から、前年度の活動報告がなされた。

(7) その他

- ・NII-ELS の終了に伴う J-Stage への移行について(事務局)

事務局から J-Stage への移行手続きの進捗状況について報告がなされた。

以上

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にしてください。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生(社会人学生を除く)です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください(スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます)。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員 (4名)・・・野田 啓子、鈴木 裕利、高橋 直治、下村 岳人
退会者・正会員 (4名)・・・堀江 固功、石渡 さくら、岸 郁美、國田 千恵子
種別変更(学生会員→正会員)(1名)・・・松本 侑馬

会員総数 397名・16団体

名誉会員：3名

正会員：356名

学生会員：38名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

(平成28年5月2日現在)

日本教育メディア学会 事務局

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 後藤康志 (新潟大学)

副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学)

委員 岩崎千晶 (関西大学)

井ノ上憲司 (長崎県立大学)

遠海友紀 (京都外国語大学)